

令和 5 年度

「運営に関する計画」  
(最終評価)



大阪市立田島中学校

令和 6 年 3 月 1 3 日

大阪市立田島中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

小中一貫校としてスタートして2年目となる。

スローガン「I'll get my dream. We'll support your dream. ～つかめ 自分の夢 ささえよう みんなの夢～」のもと4つの柱「言語力の育成」「性・生教育」「キャリア教育」「読書活動の充実」を軸に今年度も学校づくりを進めていく。

令和4年度に課題として挙げた以下の点について、令和5年度に重点的に取り組みを進めていく。

**【安全・安心な教育の推進】**

令和4年12月末現在、不登校生徒の在籍比率は9.7%(令和3年度9.6%)。不登校生徒で改善した人数は5名と、区役所、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子ども相談センター等と連携しながら、改善の方法を探っているが、大きな変化はまだ見られていない。一方、12月実施アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える生徒の割合は、74.1%で、目標値を4.1ポイント上回った。(前年度70%)特に性・生教育事前事後アンケートでは、「自分にはよいところがあると思いますか」で肯定的回答が、7年生で+7.3%、8年生で+6.2%に増加し、自尊感情の向上へ期待できる実践であった。

○「生きる教育」をはじめ、すべての教育活動において自己肯定感を高める取組の推進。

○不登校等支援が必要な児童が、落ちついて学習生活できる環境の整備。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

12月実施アンケート「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」で最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は39.5%で、目標値を9.5ポイント上回った。10月の調査から8.6ポイント上昇したことからも後半に話し合い等の活動が増加したことがうかがえる。また、GTECの結果や運動に関する生徒アンケートにおいて、それぞれ目標値を5.9ポイント、10.1ポイント上回り、大きな成果を出すことができた。

○「自分の意見をまとめる・一定の分量を発表する(説明する)・他者の意見を聞き取り自分にフィードバックする」などの活動を取り入れた授業についての研究や研修を継続的に行い、学力向上に繋げていく。

**【学びを支える教育環境の充実】**

多くの授業で学習者用端末を活用し、生徒は学習者用端末を使って調べ学習や資料の作成、自分の考えをまとめたり、発表したりできるようになっているが、生徒アンケートの結果から十分とは言えない。

図書館については、小中合同の図書館の良さを活かしたり、玄関棟ピロティにサテライトライブラリーを開設したり、ブックトラックの活用をしたりするなど、読書環境を整えた。また、ビブリオバトルを全校の取り組みとして実施することができ、学校チャンプ本は、大阪府大会に出場し、決勝まで進むことができた。

しかし、生徒アンケートからは、読書活動が定着していると言える結果ではなかった。

○学習者用端末の活用について、授業や家庭学習での効果的な使用についてシェアするなどさらに活発な活用をめざす。

#### 中期目標

##### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、90%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、85%以上にする。
- 毎年度末の校内調査における不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 毎年度末の校内調査における前年度不登校生徒の改善の割合を、毎年、増加させる。
- 令和7年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、80%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える生徒の割合を、令和3年度より6%増加させる。

##### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的に答える生徒の割合を、35%以上にする。
- 令和7年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を、76%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に答える生徒の割合を50%以上にする。
- 規則正しい生活を身に付けている生徒の割合の指標として、年度末の校内調査における「(平日)毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を令和7年度調査において、85%以上にする。

##### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査における「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」に対して、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、80%以上にする。
- ゆとりの日については、週1回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。
- 令和7年度末の校内調査における生徒1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、令和4年度より3冊増加させる。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、**82%**以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

#### 学校園の年度目標

- 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、**81%**以上にする。
- 年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、**77%**以上にする。
- 年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を **32%**以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より **2** ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を **72%**以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を **47%**以上にする。

#### 学校園の年度目標

- 規則正しい生活を身に付けている生徒の割合の指標として、年度末の校内調査の「（平日）毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を、**82%**以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、**70%**以上にする。
- ゆとりの日については、週1回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。

#### 学校園の年度目標

- 年度末の校内調査において、生徒1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、令和4年度より **1** 冊増加させる。

## 大阪市立田島中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標（小・中学校）</b></p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、<b>82%以上にする。</b></p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、<b>81%以上にする。</b></p> <p>○年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、<b>77%以上にする。</b></p> <p>○年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を知る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>好ましい人間関係や信頼関係を確立する集団を育成する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめアンケート（年3回）および相談申告機能を、1人1台学習者用端末を活用して実施する。</li> <li>・ブロック化による学校支援事業で、Q-Uテストを実施し、生徒の実態把握を図るとともに、実態に基づいた指導を行う。</li> <li>・区役所、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子ども相談センター等のいずれかの関係諸機関との連携を週1回以上行う。</li> </ul>	B
<p>取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>性と生を考える取組みを推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間各学年1回以上の取組を実施する。</li> <li>・生きるチカラまなびサポート事業を活用して、出前授業を実施する。</li> <li>・年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える生徒の割合を、前年度より増加させる。</li> </ul>	C
<p>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>9年間カリキュラムの目標を「自分らしい生き方を実現するための力を育む」と定めて、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成をする。</p>	C

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きるチカラまなびサポート事業を活用して、出前授業を実施する。</li> <li>・校内調査における「将来の夢や目標がある」と答える生徒の割合を、前年度より増加させる。(前年度 61.2%)</li> </ul>	
<p>取組内容④【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>芸術鑑賞を通して、豊かな情操や感性を養う。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事後アンケートにおいて、鑑賞行事について肯定的に回答する生徒の割合を 90% 以上にする。</li> </ul>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校等支援が必要な児童が、落ちついて学習生活できる環境を学校内に設置し、学びたいと思ったときに学べる環境を整える。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</li> </ul>	C
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p><b>全市共通目標</b></p> <p>○ 12 月実施の生徒アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は 86.7% で目標 82% に対し 4.7 ポイント上回った。今までの取組（いじめについて考える日、人権学習、人権作文、集会や式典での講話など）や小学校からの積み重ね、家庭の協力や教員の粘り強い指導などもあり、いじめはいけないことだと認識できている。日々の指導の積み重ねが今につながっていると考えるので、今後も継続的に指導をしていく。</p> <p>○ 2 学期終了時点で不登校生徒の在籍は 22 名で、比率は 11.2%。(昨年度 11.8%) 昨年度より減少しているが、今年度新たに 9 名の生徒が不登校になっており、また、中学 1 年生の人数も多い。長期欠席にならないように家庭訪問や電話連絡、外部との連携等対応していくとともに、より良い人間関係を築くことや、規範意識を醸成するなどして、日々の充実も図る。</p> <p>○ 昨年度は改善した生徒が 6 名だった。今年度は 12 月時点で、不登校生徒 22 人のうち、改善した生徒が 5 名だった。ほっとルームの活用や、区役所、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子ども相談センター等の外部機関と連携を行ったが、結果には結びつかなかった。</p>	
<p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>○ 12 月実施の生徒アンケート「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は、74.1% で目標 81% に対して 6.9 ポイントマイナスとなった。体育大会や文化祭などの学校行事では、生徒主体に取り組み、盛り上げることができたが、日々の生活、学習の中にも楽しさややりがいを感じられるようにする必要がある。</p> <p>○ 12 月実施の生徒アンケート「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は、現状 97.2% で目標 77% 以上に対し、20.2 ポイント上回る結果となった。危険性については十分理解しているものの、SNS でのトラブルがある。今後も情報モラル教室を含む、スマホについての危険性を伝えていく。</p> <p>○ 12 月実施の生徒アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える生徒の割合は、69.2% で前年度 74% を 4.8 ポイント下回った。自己肯定感を高めるために、授業以外にも、委員会活動や係活動、行事等を通して、活躍の場を作った。また、キャリア教育や職場体験で自分自身のことや将来のことを考えさせ、自分</p>	

の良さを気づかせるよう取り組んだが、前年度を下回る結果となった。

【各取組内容の進捗状況】

①「好ましい人間関係や信頼関係を確立する集団を育成する」

- ・ いじめアンケートは計画通り、年3回実施し、Q-Uテストもすでに実施することができた。加えて、2学期初めには教育相談を行い、3学期末は希望者のみ教育相談を実施予定にしている。その中で気になる生徒には声をかけたり、訴えのあった生徒には対応したりすることができた。
- ・ 連携に関してもSCやSSW、子サポ推進委員の方々に毎週来ていただいて、連携をとるようにする。今後も、普段から生徒の変化に気づくことができるよう、教職員が見守っておくことと、引き続き取組を継続していく必要性がある。

②「性と生を考える取組みを推進する」

- ・ 性・生教育年間計画の進捗状況は、計画通り行われた。9月29日・30日に行われた生きる教育公開授業では、本年度初めて全学級公開授業及び授業参観を行い、保護者及び全国各地から教合計410名の参加があり、参加者アンケートでは肯定的評価が98%であった。また授業者や各学年においては模擬授業・プレ授業を通して、教材や発問の検討や、対話的な学びを通して課題へと迫るなど授業研究を深めた。

また性暴力予防や子ども虐待予防への意識の高まりから、朝日新聞やNHKなどの取材なども行われ社会的課題への取組ともなっている。

全国生命の安全教育フォーラムでは、大阪市の発表としても本校の取組が紹介されている。

生野区生きる力学びサポート事業では各学年において助産師による性教育や赤ちゃん先生を行い、生徒事前事後アンケートや感想では自分や他者の体や心について考えて肯定的回答が高くなっていた。

しかし、生徒アンケート（最終）で、「自分には良いところがあると思いますか。」では肯定的評価が69.2%であり、中間より-3.6%減少し前年度からも-4.9%減少している。今後も性行動のリスクを鑑みながら取組の推進と個別対応を丁寧にしていく必要がある。

③「9年間カリキュラムの目標を『自分らしい生き方を実現するための力を育む』と定めて、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成をする」

- ・ 生きるチカラまなびサポート事業を活用し、職業講話やライフプランニング授業などのキャリア教育を計画通り実施することができた。また、産官学連携職業体験も実施することができた。
- ・ 生徒アンケート「将来の夢や目標はありますか」で肯定的な評価をする生徒の割合は10月は68.2%、12月57.3%だった。最終的に前年度（61.2%）より3.8ポイント低下する結果となった。

④「芸術鑑賞を通して、豊かな情操や感性を養う」

- ・ 小中合同で皮影戲の芸術鑑賞を行った。アンケートでは、「初めて影絵の鑑賞した」、「幻想的で美しかった」などと肯定的な感想が多かった。

⑤「不登校等支援が必要な児童が、落ちついて学習生活できる環境を学校内に設置し、学びたいと思ったときに学べる環境を整える。」

- ・ 2学期より設置・運用を開始した不登校等支援教室「ほっとルーム」について、2月現在、小学校2名、中学校6名の定期的な利用がある。教室と家の2者択一ではなく、学校内で教室以外に学べる場所を作ったことで、教室にはいたくないという理由で、不登校なるケースは防ぐことができてきている。一方で、現在不登校になっている生徒に対するアプローチができていない。

「学びたいと思ったときに学べる環境」については、教室からの授業配信を映すモニターの整備などのハード面と、生徒一人ひとりに合わせた学習体制の構築を含むソフト面について今後も整備を進めていく。

次年度への改善点
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 不登校対策について、2 月に設置した不登校対策委員会を定例化し、不登校生徒への支援を学校全体で行っていく。</li><li>○ 生きる教育・性・生教育実践について性・生教育部だけでなく、様々な先生方の教育実践に向けて検討していく。また評価指標の検討を行っていく。</li><li>○ 評価指標については、その取組の指標として適切なものかどうか、数値の設定として、適切なのか「前年度以上」だと毎年上げていかなければいけないので、本校としての目標数値を設定していく。</li><li>○ キャリア教育について、実践していく中で、来年度以降の課題として、より深く自身のよいところを知り、自己肯定感を高めていけるような活動・ふり返しを行っていく必要がある。</li><li>○ 芸術鑑賞について、事務室、小学校、中学校と連携して、決定するまでの段階をきちんと踏み、小学生から中学生まで楽しめる芸術鑑賞にする。</li></ul>



## 大阪市立田島中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標(小・中学校)</b></p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を32%以上にする。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。</p> <p>○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を72%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を47%以上にする。</p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>○規則正しい生活を身に付けている生徒の割合の指標として、年度末の校内調査の「(平日)毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を、82%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロック化による学校支援事業および区の校長戦略支援予算を活用し、英検を全学年で実施する。</li> <li>・ブロック化による学校支援事業を活用し、8年生でリーディングスキルテストを実施する。</li> <li>・漢字検定を希望者で年2回実施する。</li> </ul>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>学びサポーター、学校元気アップ地域本部事業を活用し、放課後学習会を実施し、主体的な学びを推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則、毎日放課後学習会を実施する。</li> </ul>	B
<p>取組内容③【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>小学校高学年の授業に入り、理数教育及び英語教育を推進する。</p> <hr/> <p>指標</p>	C

- ・ 5年生算数の授業（週3時間）および、小学校3年生理科の授業（週3時間）、小学校5年生外国語科の授業（週2時間）を行う。

#### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

##### 全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対し、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合目標32%以上には届かず27%であった。授業、行事など学校生活において、創意工夫し目標を達成できるよう継続活動をしていく。
- 中学生チャレンジテストの対府比について、（令和4年度→令和5年度）  
国語科 8年生（94.2%→94.9% 0.7P改善） 9年生（96.0%→99.2% 3.2P改善）  
2学年とも昨年度よりも対府比が改善した。特に9年生においては3.2Pと目標の2Pを上回る改善となった。  
数学科 8年生（83.6%→90.4% 6.8P改善） 9年生（100%→97.1% 2.9P－）  
8年生が、6.8Pと大きく改善した。9年生においては、昨年度対府比100%であったので、今回は、それを超えることはできなかった。
- GTECは、10月24日に実施し、CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（四技能）を51.6%という結果になった。目標72%に対し20.4ポイントマイナスの結果となった。
- 12月実施の生徒アンケート「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合は、44.8%で中間時点は59.6%であったので、アンケートをとる時期が影響している可能性もあるが、目標47%に対し2.2ポイントマイナスの結果となった。今後も日々の授業等で、継続して運動の楽しさを味わわせていく。

##### 学校園の年度目標

- 12月実施の生徒アンケート「(平日) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合は、83.2%で目標82%を1.2%上回った。  
集会や各クラスで、時間を守ることや生活習慣を整えることの重要性を話していること、各家庭の協力が得られていることが要因だと考える。

##### 【各取組内容の進捗状況】

- ①「言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。」
  - ・ 英検について、9年生は10月に、7.8年生は1月に実施した。
  - ・ リーディングスキルテストについては、8年生が11月に実施した。
  - ・ 漢字検定については、8月と1月の2回実施した。  
単元ごとのテスト、文法プリントをおこない、基礎を定着させるようにした。各教科の授業や研究授業発表において、グループミーティングの実施をしているが、更に考えを深め、タブレットなどで調べ学習をし、発表する活動をすすめていく。
- ②「学びサポーター、学校元気アップ地域本部事業を活用し、放課後学習会を実施し、主体的な学びを推進する。」
  - ・ 学びサポーターや学校元気アップコーディネーターの方々の協力のもと、柔軟な対応をしていただき、目標回数の実施を達成することができた。また、本年度は8名の学びサポーターを配置し、学校元気アップコーディネーターと合わせて10名で活動した。これにより、放課後学習会に加え、授業への入り込みによるサポートも行い、充実した活動を行うことができた。
- ③「小学校高学年の授業に入り、理数教育及び英語教育を推進する。」
  - ・ 英語に関して、1学期は週2回英語の授業に入っていたが、時間割の都合上2・3学期は中学校の授業と重なったため授業に入ることができなかった。そのため、アイデアなどのアドバイスをした。
  - ・ 算数科について、声かけを意識し、コミュニケーションを図り、質問しやすいように

<p>心がけていたが、行事前などで行けない時もあったり、実際に学力の向上に繋がったという確信まではいけなかった。授業中、雰囲気は良かった。</p> <p>・理科では1、2学期に、週8時間入り込みを行った。</p> <p>小学校での学習状況を知ることができたため、中学校での授業改善に努めることができた。</p>
<p>次年度への改善点</p>
<p>○ 英語力の向上について、英語の基礎学習、および、リスニング問題に取り組む。</p> <p>○ 季節による運動に対する意識低下を防いだり、寒い時期でも楽しんで体を動かせたりできるように、取り組む種目や内容を工夫していく。また、他者との比較よりも個人内での成長へ目を向けさせることや、勝ち負けばかりでなく、生涯スポーツの「運動を楽しむ」という心を育てていく。</p> <p>○ 欠席や遅刻をする生徒が固定化されているため、その生徒たちへのアプローチが今後の課題である。</p> <p>○ 本年度配置した学びサポーターのうち、6名が退職する。これにより、今後も充実したサポートを行うために新規の学びサポーターを確保及び配置していかなければならない。また、新規学びサポーターを配置するにあたり、指導方法や生徒対応等の研修を行い、より中身のある入り込みや放課後学習会を実施できるように努めなければならない。</p> <p>○ 小学校と中学校の教員で授業内容の連携を図ることによって、小中でそれぞれ発展的な内容に取り組むことができると考える。より、密に連携をとっていく。</p>

## 大阪市立田島中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>全市共通目標（小・中学校）</b></p> <p>○年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、70%以上にする。</p> <p>○ゆとりの日については、週1回以上設定する。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。</p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>○年度末の校内調査において、生徒1人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、令和4年度より1冊増加させる。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <p>学校図書館を拠点に、学校全体で読書環境の整備・充実を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルを実施する。</li> <li>・昼休み、放課後は、毎日図書館開館するとともに、玄関ホールに図書スペースを設ける。</li> <li>・ブックトラックを活用して、学級や校内の図書スペースの本の入れ替えを行い、読書に親しむ環境を作る。</li> <li>・校内調査における「読書をしている」と答える生徒の割合を、前年度より5ポイント以上増加させる。（前年度36%）</li> </ul>	C
<p>取組内容②【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>1人1台学習者用端末持ち帰りによる家庭学習の推進</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1台学習者用端末を原則毎日持ち帰らせ、課題や自学自習に取り組む。</li> <li>・授業者全員が1回以上、Teamsを活用して、課題を与える。</li> </ul>	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><b>全市共通目標（小・中学校）</b></p> <p>○12月実施の生徒アンケート「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合は、47.6%であった。10月は、72.8%で達成していたが、大幅な低下となった。（目標70%以上）各教科で単元だけでなく、日常的に継続して使用することが必要である。</p>	

- 「ゆとりの日」については毎週月曜日に設定し、実施することができた。学校閉庁日においても夏季休業期間中の8月14・15・16日に設定し、冬季休業期間中には、12月28日と1月4日に設定し、実施することができた。

#### 学校園の年度目標

- 昨年度より中学校の利用日を増やしたり、図書館司書による出前図書館、教科によって授業で図書館を利用して貸出促進も行ったりした。朝読のための学級文庫も充実させた。しかし、図書館の貸し出し冊数は昨年度794冊、今年度は407冊で、貸出冊数が減少してしまった。これは昨年度中学3年生に100冊以上貸し出す生徒が2人(計211冊)いた影響も大きいですが、それを除いても昨年度令和4年度よりも少ない。

#### 【各取組内容の進捗状況】

- ①「学校図書館を拠点に、学校全体で読書環境の整備・充実を行う」
- ・12月実施の生徒アンケート「日々の生活の中で読書をしている」と答える生徒の割合は、28.7%であった。(目標41%)
  - ・図書館の開館を中心に、学級文庫、サテライト図書館、朝読、ビブリオバトルの実施をした。
- ②「1人1台学習者用端末持ち帰りによる家庭学習の推進」
- ・タブレットの持ち帰りによる家庭学習は定着していない。
  - ・夏休みや授業の単位によってはタブレットを使用する課題が出た教科があった。
  - ・家庭学習でNavimaを活用している生徒も少ない。

#### 次年度への改善点

- 「ゆとりの日」と学校閉庁日は継続して設定していくが、「ゆとりの日」については意識的に利用している者もいるが、現状を鑑みるとなかなか利用できていない者も多く、今後さらに推進していかなければならない。
- 読書の推進については、図書館や学級文庫の本を利用して、朝読が充実する取り組みをしたり、ビブリオバトル、読書感想文、読書感想画を意識させて取り組ませたりする。
- 端末の使用の定着を目指し、各教科でデジタル教材を活用するなど継続的に学校全体で取り組む課題が必要である。